学校通信

子午線

令和３年9月30日
10月号
三木市立三木小学校

子どもたちの環境を

学校長　小紫　達矢

昼間はまだまだ暑い日が続いていますが、朝夕は随分と気温が下がり。半袖では少し寒いと感じるような季節になりました。兵庫県の新型コロナ感染者は、一時期 1000 人を超えていましたが、随分と減少し、9月 30 日が期限の緊急事態宣言は解除されることになりそうです。しかし、今後冬の第６波の感染拡大が心配されることから、学校内での感染対策は気を緩めることなく引き続き実施して参ります。

さて、夏の愛校作業の中止、運動会の実施時期や実施方法の変更、児童数の減少などから、運動場に雑草が生え、グランド状態がよくありません。いろいろなご用事等で来校された方はご覧になられたかも知れません。

【バスケットボールコート】

そこで、夏休みの後半から、子どもたちが遊びやすいように既存のボール運動のコートを整備したり、新しくコートを作ったりしています。右上の写真は、運動場北側にあるバスケットコートです。切れていたロープを新しく張り直し、雑草を抜き、土を入れて整備しました。右下の写真は、運動場東に新しく作った低学年用のドッジボールコートです。低学年用にサイズを測り、ロープを張り、雑草を抜き、整地をしました。

これ以外にも運動場西のフットサルコートも整備を終えました。更に運動場に西側に高学年用ドッジボールコートを北側に高学年用ミニサッカーコートを整備しているところです。この整備の作業には６年生の児童が関わってくれており大きな力になっています。

【低学年用ドッジボールコート】

この作業を通じて、三木小学校の運動場が子どもたちにとって思い切り体を動かして楽しく過ごすことのできる居心地の良い環境になって欲しいと考えています。

子どもたちにとって大切な環境は運動場だけではありません。中でも子どもたちにとって最も大切で、最も影響の大きい環境は回りの私たち大人ではないでしょうか。９月 26 日の神戸新聞三木版で本校に勤務していた横田美空さんの記事が大きく掲載されていました。横田さんは、青年海外協力隊員になったきっかけを小学校の総合学習の授業で青年海外協力隊を知り、中学生の時、アフリカのザンビアで活動した元隊員の講演を聞いたことだと話しています。

小学校での学習や活動などの経験が将来大きく子どもたちの人生に影響してくることもあります。私たち教師は、子どもたちの未来に心をはせながら、日々の子どもたちへの支援や指導を実践してまいります。保護者の皆様にも、感染症対策などでいろいろとご不便等をおかけしますが、何卒、ご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。